

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	機械工学実習Ⅱ	担当教員	稲葉金正			
学年学科	3年 機械工学科	通年	必修	3単位	別表2対象科目	
学習・教育目標	(D-2) 100%					
授業の目標と期待される効果： 授業の目標 機械の創作体験を通じて、良い学習の習慣を身に着け、機械技術者としての応用能力を身に着ける。 期待される効果 ① 各種工作法を習得し、生産プロセスにおける工作技術の位置付けが理解できる。 ② ものづくりを実施する際に必要な、実践的機械加工技術が習得できる。 ③ 自動化生産システムの原理を理解し、運用する能力を養うことができる。 ④ ものづくりに関わる安全知識が身につく、これを実践するための行動様式が習得できる。		成績評価の方法： 作業状況及び加工製品に対する技能評価 (40 点)、レポート (40 点)、安全意識とモラル (20 点) を総計した総得点 (%) で評価する。 達成度評価の基準： 各達成度項目について、6 割以上の正答まで達していること ① 各種工作法を習得し、生産プロセスにおける工作技術の位置付けが理解できている。 ② ものづくりを実施する際に必要な、実践的機械加工技術が習得でき、応用力が培われている。 ③ 自動化生産システムの原理を理解し、運用する能力を養うことができている。 ④ ものづくりに関わる安全知識が習得され、工学実習における安全意識とモラルが図られている。				
授業の進め方とアドバイス： 1. クラスを 6 班に分けて 6 種類の実習を 5 週ずつ行う (合計 30 週)。 2. 授業は、製作実習を中心に行うので、製作品を期限までに完成し提出すること。 3. 提出レポートとは別に、板書書写、あるいは計算用のメモ帳として、手持ちの実習ノートが必要である。 4. 1 学年時の安全講義を基礎として、実作業における安全意識とモラルについて強化する。実習中の問題行動については、随時、指導を行う。 5. 「授業」に遅刻した場合は、教員が確認するまで教室の後部で起立のまま待機すること。						
※理解度を深めるために必要であると判断される場合、周知した上で本シラバスの内容を若干変更することがある。						
教科書および参考書： 教科書：配布プリント、「機械実習安全のこころえ」、(土井正志智他著、市ヶ谷出版、1983 (4))						
授業の概要と予定：通年 第 1 回 ～ 第 30 回：						
ジョブ内容						
実習 A：切削加工 1・機械制御		旋盤の基本操作と応用作業、及び教育用ロボットのパログラム作成と操作				
実習 B：切削加工 2		フライス盤作業を基調とした治工具の製作作業				
実習 C：鋳造		鋳造の基本作業				
実習 D：溶接・鍛造		各種溶接の応用作業及び鍛造作業				
実習 E：NC 工作機械		マシニングセンタのパログラム作成と加工				
実習 F：シーケンス制御		シーケンス制御の FA への適用				
ジョブスケジュール						
	週					
	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30
1 班	A	B	C	D	E	F
2 班	B	C	D	E	F	A
3 班	C	D	E	F	A	B
4 班	D	E	F	A	B	C
5 班	E	F	A	B	C	D
6 班	F	A	B	C	D	E
※15 週目に授業内でフォローアップを実施する。						